

特集「英語教育はどうあるべきか」 Part 2

『ニュークラウン』を使った授業の特色

津田 雅子

(東京都練馬区立開進第二中学校教諭)

1. はじめに

NEW CROWN を使い始めて3年目になる。それまでは、題材内容を深く掘り下げ、考えさせるというような授業展開は難しい状況にあったが、使用教科書が NEW CROWN にかわって以来、「ことばの意義」「異文化理解」「人間の生き方」などについて生徒に問いかけをすることが多くなった。それは、これらが NEW CROWN の3つの理念であり、教科書づくりの根幹をなしているからにほかならない。

本稿では、3年生、7課 A Vulture and a Child を取り上げて、これらの観点を意識した授業展開を考えてみたい。

2. A Vulture and a Child の内容

この課のねらいは、次の3点である。

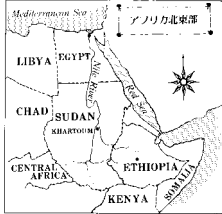
- 1) スーダンという国を知り、アフリカの飢餓と子どもが置かれた現状について考える。
- 2) 一枚の報道写真を通して、人道(ヒューマニズム)と報道のあり方について考える。
- 3) ひとつの話題について賛否両方の立場から討論する方法を学ぶ。

これらのねらいを見ればわかるように、この課は NEW CROWN の3大理念「人間教育」「異文化理解教育」「ことばの教育」すべてを扱っている教材である。アフリカの北東部に位置するスーダン共和国を取り上げており、セクション1でスーダンの紹介、セクション2で Kevin Carter が写真を撮る状況からピュリツァ

LESSON 7 **A Vulture and a Child**
アフリカのスーダン共和国で、あるフリーカメラマンが撮影した1枚の写真が全世界に大きな衝撃をもたらした。

□ The Sudan is a country in the northeast of Africa. It is the largest country in Africa. About 26 million people live there.


In 1993 people in the Sudan were suffering from war and hunger. Kevin Carter went there and worked as a photographer. He wanted the world to know the facts. It was his job.



1. How many people live in the Sudan?
2. What did Kevin Carter do in the Sudan?
 He **wanted** to take a picture.
 He **wanted me** to take a picture.

Q&A	northeast [nɔ:di:st]	million [mɪljən]	suffer [sʌfə]	war [wɔ:]	hunger [ˈhʌŋgə]	photographer [fəˈtɒɡrəfə]
POINT	vulture [ˈvʌltʃə]	the Sudan スーダン [sʊˈdæn]	Africa アフリカ [ˈæfrɪkə]	Kevin Carter ケビン・カーター [kɛvɪn kɑ:tə]	(Aの8冊)	

suffer from ~



ハグワンのオタタ(1994年撮影ピュリツァー賞受賞)

□ One day while he was walking around, he saw a horrible scene. A vulture was waiting for a child to die. He pressed the shutter. This is the photo.

He asked an editor to print it. Soon it appeared in newspapers all over the world. This photo made him famous. He won a Pulitzer Prize for it.

He was famous.

1. One day Kevin Carter took a picture of a vulture. What was it doing?
2. Where did his photo appear?

POINT This photo **made him famous.**

Q&A	horrible [hɔ:ribəl]	scene [si:n]	press [pres]	shutter [ʃʌtə]	photo [ˈfəʊtəʊ]	editor [ˈedɪtə]	appear [əˈpiə]
WORDS	newspaper [ˈnju:zpeɪpə]	famous [ˈfɑ:məs]	Pulitzer Prize プリツァー賞 [ˈpʊlɪtəzə preɪz]				

54 • fifty-four fifty-five • 55

一賞を受賞するまで、セクション3では写真に対するふたつの考え方を紹介している。

3. 指導にあたっての注意事項

この課において教師が心がけたいことは、生徒に考える時間を十分に与えることである。通常、授業では主に言語材料の習得やコミュニケーション活動に力点が置かれ、題材内容についての「考える活動」は二の次になりがちである。しかし一般的に「最近の子どもは感動しない。考えを表さない」などといわれる昨今、おとなであり教師である私たちが子どもたちに「問いかける」ことの必要性は、より高まってきているといえる。何かを感じてほしい、そして感じた何かを大切に自分の考えをまとめ、発表できるようにしてほしい。そのためには前提として、この課のように子どもたちの感性を揺さぶり、考えるきっかけになりうる題材と、十分な時間が必要であると思う。

4. ピクチャーカード・Q&Aで題材の深化を

NEW CROWNの編集委員の一人である齋藤栄二先生が本誌42号で、「本当のコミュニケーションの力を伸ばすには考える力は欠かせない」考える力を伸ばすためには、考えさせる要素をもった題材を準備しなければならない」と書かれている。この3年7課はまさにその考えさせる要素をもった題材である。「ハゲワシと少女」の写真を教師が何も語らず、生徒の前に提示するだけでも生徒に与える影響は大きいと思う。以下、私が実践したこの課の導入を示す。

- 1) 「ハゲワシと少女」のピクチャーカード(写真)を提示する。
- 2) ピクチャーカードについて英語でたずね、写真について考えさせる。

T : What's this?
S1 : It's a child.
T : Yes. It's a child. It's a girl. What's this?
S2 : It's a bird.
T : Right. It's a kind of bird. Its name is a vulture, hagewashi in Japanese. How do you feel about this picture? Please think.
- 3) 生徒の答えを引き出す。

S3 : The girl is very small.
S4 : 子どもが痩せている。

- T* : Yes, she is thin.
S5 : I'm sad.
S6 : I'm not happy to see it.
T : What is this vulture doing here?
S7 : It is trying to attack the girl.
T : Why doesn't the girl run away?
S8 : Because she can't move.
T : Why can't she move?
S9 : Because she is hungry.
T : Yes. You are right. What do you think about this photo?
S10 : I think it's very shocking.

4) CDを聞かせ、課全体の内容を把握させる。

5) 聞き取った内容について fact finding をさせる。

fact findingとは齋藤先生が紹介されている機械的な応答であるが、生徒のコミュニケーション能力を高めるために、普段から英語で聞き、答える exercise を行いたい。そのためには、脚注のQ&Aが利用できる。セクションごとに2つ程度の簡単な問いではあるが、fact findingのexerciseには有効といえる。

また、レッスンの終了後には、本文の最後にある生徒への問いかけ“ What do you think? ”について考えさせたい。これは、Personal Involvementなexerciseになる。平成14年度からの新学習指導要領で謳われている「自ら考える力」を養うために、Kevin Carterのとった行動について考え、それをまとめ、発表することを目的としたい。私の授業では、まず、I support Kevin Carter. か、I don't support Kevin Carter. のいずれかを選ばせ、そのように考える理由を2~3文で説明するよう求めた。自由に英語で表現するのは難しいので、本文中の文を使ったり、それに追加していくかたちで表現させた。

生徒の表現例

- I support him.
Because his photo focused the world's attention on the Sudan. If he didn't take a picture, the Sudan's facts weren't known by people all over the world.
- I support him.
I think his photo is very important. His photo helped many other starving Sudanese. It will be able to help many people from now.
- I don't support him.
I think that taking pictures is good. But I think saving the

child is more important.

- I don't support him.

Because I think he had to help the children before he took the photo.

A Vulture and a Child は切り込みの鋭い題材であるが、それだけに生徒たちはそのメッセージを自分のものとして把握することができるものと思う。

5. 言語材料をわかりやすく理解・運用させる





コミュニケーションの基本になるのは語彙や文型・文法である。NEW CROWN は言語材料の配列についても十分な配慮がなされている。

この課ではセクション1で<主語 + want + 目的語 + to + 動詞の原形> , セクション2で<主語 + 動詞 + 目的語 + 補語(形容詞)> , セクション3で現在分詞, 過去分詞の前置修飾と並んでいる。既習の内容から新しい文型・文法を導入し, 生徒の気づきを大切にしたい。たとえばセクション1では, He wanted to take a picture. の表現を使って, He wanted me to take a picture. を引き出す。多くの生徒は<want to ~> が「~したい」の意味であることを知っているので, 間に me が入ることで何らかの変化が生じるであろうことに気づく。その気づきを大切に指導をする。教師は「What kind of differences are between the two sentences? Think about it.」と生徒に質問する。予習をしている生徒もいるので答えはすぐに出てくるであろうが, 教師がただ説明するのではなく, まずは生徒が自ら考える時間を与えることが大切である。

導入後は練習の時間となる。NEW CROWN では, TRY&CHECK(各 LESSON 末の練習問題)で学習した言語材料の定着を図ることができる。この段階の練習では, 生徒が混乱するような問題ではなく, 簡単な問題が望ましい。私は, 各セクションごとに授業を展開することが多く, 新しい言語材料の提示後に TRY&CHECK を活用している。「絵を見ながら, 例にならって言ってみよう」「友だちと対話をしてみよう」などは, ペアワークやグループワークで取り組ませる。教師は, 教室をまわりながら生徒のようすを把握し, その後クラス全体で練習したりということもある。また, 問題の中に2(5)のように, 自分で考えた語を使って表現させるようなものもあ

TRY&CHECK 7

1 絵を見ながら, 例にならって文を完成しよう。□

(例) 	(1) 	(2) 	(3) 
open the window	wash the dishes	go to bed	be a teacher

(例) It was very hot. Our teacher asked me to open the window.







(1) My mother was very busy yesterday. She asked me _____.

(2) It is 12:30 at night. My mother will tell me _____.

(3) I want to be a doctor in the future. But my father and mother want me _____.

2 例にならって, 左の語と右の絵をもとにして友だちと対話してみよう。(5)の()には適当な語を入れて言ってみよう。②

(例) (angry — the news)
A: You look angry. Why?
B: The news made me angry.

(1) angry			
(2) sad	the movie	the music	his words
(3) happy			
(4) warm	the <i>akabasu</i>	the news	the book
(5) ()			

fifty-seven • 57

Book 3, LESSON 7 練習問題

り, 生徒の独自性や発想力を育成する上で有効である。

6. 言語活動を楽しく実践的に行う

生徒がことばを使ってみたいと思う状況を作り出すことはまさに教師の Creativity のひとつである。この課でも生徒の興味・関心をひく身近なテーマでことばを使用する場面を設定することができる。たとえば, TRY&CHECK の1を発展させ, 「私が家族に頼みたいこと, 望んでいること」などのテーマを与え, それについて発表させる。すぐに speaking できない生徒がいる場合は, ノートに書かせてもよい。教科書という材料を上手に料理する方法を教師自らが考え, 工夫し, より効果的な独自の指導を実践したいものである。